

## 令和6年度第1回国分寺市地域福祉推進協議会

日時：令和6年7月1日（月）

午後2時～午後4時10分

会場：リオンホール（cocobunji WEST5階）

出席委員 55人

【事務局】地域共生推進課長（小峯）、地域共生推進課重層的支援体制整備担当係長（渡部）、  
地域共生推進課職員（松井、大坂）

### 次第

- 1 開会挨拶
- 2 会長及び副会長の互選について
- 3 令和6年度年間スケジュールについて  
（国分寺市地域福祉計画実施計画（後期）等に係る進捗状況評価への意見のご提出について等）
- 4 国分寺市地域福祉推進協議会について
- 5 福祉の総合相談窓口キャラクター投票について
- 6 活動報告について（ナビゲーター：地域福祉コーディネーター）
- 7 グループワーク『社会資源マップを作ろう！【第1弾】』
- 8 閉会挨拶

### 資料

- 【資料1】国分寺市地域福祉推進協議会設置要綱
- 【資料2】令和6年度国分寺市地域福祉推進協議会年間スケジュール
- 【資料3】令和6年度国分寺市地域福祉推進協議会について
- 【資料4】「丸っとふくまど」キャラクター投票
- 【資料5】地域福祉コーディネーター活動報告書
- 【資料6】空想自己紹介のやり方（アイスブレイク）
- 【資料7】令和6年度国分寺市地域福祉推進協議会委員の活動情報・取組情報
- 【資料8】グループワークの進め方
- 【資料9】グループワーク名簿
- 【参考資料】地域福祉コーディネーター活動報告書（冊子）

開会 午後2時

### 1 開会挨拶

事務局より開会挨拶及び資料確認を行い、併せて記録作成のための写真撮影及び音声録音について説明を行った。

### 2 会長及び副会長の互選

委員互選に基づき、宮崎会長及び小川副会長の選出の確認を行い、拍手にて承認した。

#### 【宮崎会長挨拶】

ただいま会長にご推挙頂きました国分寺市民生委員・児童委員協議会の宮崎邦子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。まだまだ会長として力不足ではございますが、小川副会長とともに議事の進行に務めてまいりたいと思いますので、本日は最後までどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【小川副会長挨拶】

国分寺市社会福祉協議会の局長の小川と申します。どうぞよろしくお願い致します。宮崎会長を補佐し、しっかりと会の進行に務めてまいりたいと思います。本日も市から委託を受けている地域福祉コーディネーターの活動報告をさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い致します。

### 3 令和6年度年間スケジュールについて

#### (国分寺市地域福祉計画実施計画（後期）等に係る進捗状況評価への意見のご提出について等)

##### 【事務局説明】

資料2「令和6年度国分寺市地域福祉推進協議会年間スケジュール」を説明する。第1回協議会開催の後、活動情報や市の地域福祉計画の評価に係る意見などへの書面等でアンケートを実施し、1年間の活動の振り返りを経て、来年2月に第2回協議会を開催する予定としている。

### 4 国分寺市地域福祉推進協議会について

##### 【事務局説明】

資料3「令和6年度国分寺市地域福祉推進協議会について」を説明する。国分寺市地域福祉推進協議会は、国分寺市の地域福祉の推進を図ることを目的とし、第一次国分寺市地域福祉計画に基づき平成27年11月16日に設置をされ、今年で設置から9年目となる。

この間、新型コロナウイルス感染症の拡大が社会参加の機会の減少につながり、委員の皆様の活動も制限されるような事態になった。また、孤独・孤立に陥りやすい状況も生み出し、人と人とのつながり、地域とのつながり、地域福祉の重要性を再認識するきっかけとなった。

地域福祉推進協議会は、地域で活動される皆様が集まり、地域の課題や社会資源などを共有し、意見を出し合うことで新たな関係性の構築や新たな気づきを得て地域に還元できることを探る取組が行われており、地域福祉の推進に係るプラットフォームとして展開されているところである。展開に当たっては「情報の発信」、「刺激の循環」、「魅力の発見」、3つのコンセプトを設定している。

令和6年度地域福祉推進協議会を開催するに当たり、3つのキーワードを設けた。一つ目は「集まれる場」である。既に地域で活動されている方、地域福祉に興味があり、これから活動してみたいと考えている方々の交流の場として、顔の見える関係性が作れる機会を引き続き設けていく。二つ目は「コーディネート」である。委員の皆様が中心となって主体的に協議会を活用し、「こんなことをやってみたい」が実現していける場としていく。三つ目は「ナビゲーター（進行役）」である。

「こんなことをやってみたい」の実現に向けてナビゲーターを設定し、具体的に進行管理を行っていただきたいと考えている。「ナビゲーターとして進行管理を行いたい」、「自分の活動についてのグループワークを企画してみたい」と思っても、その方法の良し悪しや負担感などが頭をよぎるかと思う。例えば「自分の活動をもっと知ってもらいたい、協力してもらいたい活動内容をうまくまとめられるか」など不安に思われる方には、事務局側で作成したフォーマットを活用し、整理する

ことが可能ではないかと考えている。事務局では、皆様の「こういうことをしてみたい」の相談を受け止め、一緒に検討していくので、お気軽にご相談いただきたい。

今回、第1回目のナビゲーターには、国分寺市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーターをお迎えすることになった。後ほど活動報告をしていただくとともに、企画いただいたグループワークを実施する。今回は地域福祉コーディネーターに担っていただくが、ナビゲーターは随時募集しているので、事務局へ問い合わせをしてほしい。

## **5 福祉の総合相談窓口キャラクター投票について**

### **【事務局説明】**

資料4「丸っとふくまど」キャラクター投票について説明する。福祉の総合相談窓口「丸っとふくまど」のキャラクターを投票していただく企画を用意している。投票をするに当たり、福祉の総合相談窓口の概要とキャラクター検討に至った経緯を簡単に振り返る。

福祉の総合相談窓口は、相談者の属性にかかわらず包括的に相談を受け止め、支援関係機関で連携を図りながら支援を行うため、複合的な課題に対する総合相談機能を果たす窓口を市役所に設けた。

実施内容は、令和5年1月から開設しており、現在は本庁舎にある第二庁舎1階で、毎週水曜日午前9時から午後5時まで（祝日、年末年始は除く）、窓口と電話での相談受付ということでスタートした。令和6年4月からは一部機能を拡張し、メールでの相談受付と出張窓口を市内2か所で行っている。

「福祉の総合相談窓口」だと漢字が多く堅い印象なため、より多くの方に知ってもらい、親しみを持って利用してもらえるような愛称を募集するという企画を立てた。令和4年度に地域福祉推進協議会にてアンケート形式で愛称の募集を行い、10件の応募があった。その後、庁内の会議体である地域福祉推進委員会で投票を行い、最終的に10案の中から「丸っとふくまど」という愛称に決まった。応募された方の想いとして相談者の困りごとを“丸ごと”受け止める福祉の総合相談窓口ということで決定した。さらに、この「丸っとふくまど」という愛称から想起されるキャラクターの作成を企画した。市と地域活性化包括連携協定を結んでおり、市のプロモーションビデオ作成の実績があるテクノスカレッジに協力してもらい、9案頂いた。その後、地域福祉推進委員会において投票を行い、4案まで選定したものである。

## **6 活動報告について（ナビゲーター：地域福祉コーディネーター 野村委員）**

資料5「地域福祉コーディネーター活動報告書」を説明する。市からの委託を受けて丸5年が経過し、活動内容を知ってもらうため活動報告書を作成した（参考資料「地域福祉コーディネーター活動報告書（冊子）」）。

国分寺市社会福祉協議会は、現在総勢約40名で活動している。地域福祉コーディネーターは、地域福祉課の相談支援係に所属しており、制度の狭間の問題に対応するために配置され、個別支援と地域支援を一体的に行う役割を担っている。個別支援に関しては、どこに相談したらよいか分からない困りごとや気になることなど様々な相談に幅広く対応している。支援内容は、相談支援、必要なサービス等につなぐ、関係機関や活動団体との連携である。これらを行いながら問題の解決に努めている。

地域支援は、地域活動の立ち上げや運営の支援を行っている。解決に向けて関係機関や地域の

方々と一緒に取り組んでいる。支援内容は、新たな地域活動の立ち上げの支援、地域活動の運営の支援、活動団体等とのネットワークづくりである。

地域福祉コーディネーターは、4つのキーワードを大切に活動している。一つ目が「きづく」、積極的に地域に出向き、地域のニーズを把握していく。二つ目が「うけとめる」、どんな相談や困りごととも受け止め、寄り添いながら一緒に解決に向けて取り組んでいく。三つ目が「つなぐ」、支援が必要な方を専門機関につなぎ、地域の方々や関係機関とのネットワークを強くしていく。四つ目が「つくる」、適切なつなぎ先がない場合には、地域に必要な取組や仕組みなどを一緒に作っていく取組を行っている。

地域福祉コーディネーターは主に東西2圏域で分かれ、各2名ずつ計4名で活動を行っている。

今回の活動報告書の作成に併せて、5つの行動指針を設定した。①「はじめは『地域』です」である。地域に出向き、常にアンテナを張り続け、地域の魅力や課題を探す。②「『丸ごと』受け止め、『らしさ』を支えます」である。相談や困りごとを丸ごと受け止め、その地域や相談者らしさを支えていく。③「一緒に考え行動します」である。私たちだけで行動するのではなく一緒に行動していく。そして、真面目過ぎてしまうと疲れてしまうので、④「わくわく」と「ユーモア」を大切にする」である。最後に⑤「アップデートし続けます」である。現状維持ではなく常にアップデートしていきながら活動していく。

個別支援の相談件数等について説明する。新規相談件数は、令和2年度は28件であったが、令和5年度には115件と徐々に増えている。相談経路は、本人や本人周辺の方からの相談が非常に多い。相談手段は、電話での相談が最も多く、「その他」とは、地域に出向いて立ち話で情報を得ることや関係機関の会議へ参加する等を指す。主な相談内容及び背景は、令和2年度は「障害：18.3%」、「経済的困窮：15.0%」、「近隣トラブル、不登校・引きこもり：13.3%」、「その他：6.7%」だったが、令和5年度は「その他」が21.5%と1位になり、「障害：17.4%」、「不登校・引きこもり：14.8%」、「経済的困窮：14.4%」、「病気・けが：10.7%」となった。「その他」の例として、「ペットの飼育が困難」、「異臭のトラブル」、「地域の居場所情報を知りたい」、「転居先探しを手伝ってほしい」といった、分類できないような相談内容の割合が増えている。主な関係機関連絡先及び連携先は、令和2年度は「地域：21.1%」、「行政：18.4%」、「社会福祉協議会：13.2%」、「介護：10.5%」、「その他：8.8%」だったが、令和5年度は「その他」が24.7%と最も割合が多く、具体的には、地域活動団体、居住支援団体、不動産、消防署、動物病院など様々な関係機関と連携をすることが増えている。

地域支援の相談件数等について説明する。新規相談件数は、令和2年度は70件で、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で46件に減少し、令和4年度は83件、令和5年度は109件となった。相談手段は、電話での相談が最も多い。主な相談内容は、個別支援と同様に、「その他」の割合が最も多くなっており、具体的には「作った野菜を子ども食堂に使ってもらおう仕組みを作りたい」、「関係機関との関係づくり・連携をしていきたい」、「広報活動に協力してほしい」、「衣類や食品を寄附したい」といった様々な相談に幅広く対応しているような状況である。主な関係機関連絡先及び連携先は、令和5年度は「その他」が最も多く、具体的には地域活動団体（居場所運営団体、ひきこもり家族会・当事者会、多世代食堂、子育て支援関連など）、青年会議所、小・中学校PTAなど、様々な関係機関と連携を行っている。

実際の支援の事例について説明する。

#### ●個別支援の事例

### 《相談内容》

地域包括支援センターから相談。高齢のお父さんが亡くなると、ひきこもり状態にあるAさん(50代)と関わることができなくなるため、今からAさんに関わって欲しい。

### 《支援内容》

- ①地域包括支援センター職員と一緒に月1回程度、Aさん宅へ訪問。  
(Aさんの話を聞き関係性づくり行ったことで、Aさんから困りごとの相談が増えていった。)
- ②障害の支援関係機関につながるよう、障害福祉サービスの情報提供を行った。
- ③障害福祉サービスの利用手続きのため、障害福祉課窓口に同行。
- ④障害関係の相談支援事業所につなげることができた。

### 《現在の様子》

相談支援事業所が支援の中心となり、相談員と一緒に生活しやすい環境づくりを行っている。Aさんが苦手なことを支援者が支援することで、自分でできることが多くなり、今まで以上にプライベートな話もしてくれるようになり、明るい雰囲気になっている。

## ●地域支援の事例①：「防災準備会」の立ち上げ支援

### 《相談内容》

地域住民から、自治会や防災会がない地域に防災会があることのメリット・デメリットについて知りたいという話が上がった。

### 《立ち上げ支援の経過》

- ①地域住民の疑問をキャッチする  
→定期的に情報共有や交流の場となる地域会議に参加した際に、地域住民(Cさん)から「防災会があることのメリット・デメリットを知りたい」という話が上がった。Cさんとの関係づくりや問題に対する理解を深めるため、一緒に現状把握を進めた。
- ②関係機関や団体との懇談の場を設ける  
→先駆的な活動をする地域の防災会の代表に相談し、「防災会」について考える懇談の場を設け、住民同士の共助や防災会の活動内容などの意見交換を行った。地域住民と理解を深めるにつれて、自治会もほとんどない地域で防災会を立ち上げる難しさを感じ、賛同する仲間が必要であることを共有した。
- ③Cさんと一緒に行政から話を聞く  
→市の防災体制や現状について何う場を設けた。防災まちづくり学校を卒業して「防災推進委員」になることで市と連携した防災会の立ち上げができることや、既存の防災推進委員の情報を把握できることがわかった。防災まちづくり学校を受講するとともに、同じ地域で「防災」に興味がある方に声をかけた。
- ④防災準備会の立ち上げ  
→防災まちづくり学校の受講者に、Cさんと同じ地域の方が5名いることがわかった。受講終了後に、連絡先を教えてもらい、今後の活動について話し合うための懇談の場を調整した。「防災会」を立ち上げるための「準備会」として月1回集まり話し合いを進めている。

## ●地域支援の事例②：ひきこもり当事者会と家族会の立ち上げ支援

### 《相談内容》

近隣市にひきこもり当事者会や家族会があるが、市内には少ないため、新たな会を立ち上げたい。  
《立ち上げ支援の経過》

①市内外へ地域アセスメントを行う

→ひきこもりに関わる相談件数が増加したことがきっかけとなり、市外のひきこもりに関わるイベントや家族会、研修会等に参加して情報収集を行った。その中で市内にひきこもりの当事者会や家族会が少ないことが判明。キーパーソンに出会い、新たな会の立ち上げに向けて話し合いを行った。

②ひきこもりの問題を啓発する

→新たな会を立ち上げるにあたって、まずはひきこもりの問題を啓発する必要性を感じ、不登校・ひきこもり講演会を実施して、ひきこもり当事者会・家族会の立ち上げに興味・関心のある方に声かけをした。

③立ち上げに向けて茶話会を実施

→茶話会では、開催日や場所、会の名称や方針など具体的な内容を考えた。また、広報のためにチラシ作成やSNSの開設等を行った。

④新たな会の活動を開始する。(月1回程度)

→地域福祉コーディネーターは、運営メンバーのサポート(場所の確保、情報提供、司会のサポートなど)を行いながら、支援関係機関に立ち上げたことの情報共有をして、定期的に国分寺市社会福祉協議会のFacebookとXで情報発信を行った。さらに、地域福祉コーディネーターに個別相談があったケースに関して、新たな会につなげることもした。

地域福祉コーディネーターが実際にどのような活動をしているか、随時SNSで周知しているので見てほしい。

以上、活動報告とする。

(休憩)

## アイスブレイク：空想自己紹介

資料6「空想自己紹介のやり方(アイスブレイク)」を説明した。グループごとに自己紹介を行った。

## 7 グループワーク『社会資源マップを作ろう!【第1弾】』

資料9「グループワーク名簿」ごとに、ナビゲーターである地域福祉コーディネーターの野村委員を主導に、資料8「グループワークの進め方」に沿って実施した。第2回の開催までに、地域で活動する中での新たな社会資源の把握をお願いした。

## 8 閉会挨拶

【宮崎会長】

以上で第1回の地域福祉推進協議会の議事が全て終了いたしましたので、本日はこれで閉会したいと思います。お帰りの際、「福祉の総合相談窓口キャラクター」の投票用紙を受付で提出してください。投票用紙は持ち帰らないようにお願いします。

それでは、私から少しご挨拶をさせていただきたいと思います。地域福祉推進協議会は委員の皆様と一緒に進めてきましたが、今年で9年目となりある意味歴史を感じております。

平成27年11月に設置され、地域の活動団体、個人の委員の皆様が「地域共生社会の実現に向けた取り組み」を推進するため、地道に活動してきたということは言うまでもないことです。

平成31年4月には福祉ニーズの多様化、複雑化へ対応するため地域福祉コーディネーターが設置され、ますます地域福祉が進んできたように思います。令和5年1月には「福祉の総合相談窓口」が設置され、令和5年4月から重層的支援体制整備事業が本格実施となりました。その中でこの地域福祉推進協議会は地域のプラットフォーム的な役割を担っていると思います。これも委員の皆様の地道な活動が大きく寄与してきたことは言うまでもないことです。「つながり支え合う地域づくり」を目指して、今年度は、地域を知っていくため、「情報の発信」、「刺激の循環」、「魅力の発見」ということをテーマに進めてまいります。第2回に向けて地域の「社会資源マップ」を作成してまいりますので、地域の魅力を発見する、どんな情報が足りないのかなど、委員の皆様とともに探求していく期間にしたいと思います。本日は長時間になりましたが委員の皆様のご協力ですべて終了することができました。ありがとうございました。

閉会 午後4時10分